

平成28年(2016年)4月5日 (火曜日)

日本水大賞

GW三島に環境相賞

水の都 再生の功績評価

水循環の健全化に向けて、三島市のNPO法人「GW三島の取り組み」が、第18回日本水大賞を受賞した。



源兵衛川の中流部で草刈りや外来生物の除去など環境再生活動に取り組む地元の高校生たち＝昨年7月、三島市内

みが環境大臣賞に選ばれた。市民や企業、行政と協働で水辺環境の改善や希少種の生息空間づくりに尽力し、水の都・三島の再生を成し遂げた功績が高く評価された。渡辺豊博専務(65)は「地域住民の自発的な活動で古里の原風景が復活し、観光振興や教育の面でも波及効果が現れている。23年間の活動が認められて光栄」と話した。

日本水大賞委員会と国土交通省が水環境や水防災などに関する活動を公募し、全国から151件が寄せられた。

GW三島は生活排水の流入などで水質が悪化した源兵衛川で1990年以降、年間50回以上にわたって住民参加の環境改善活動を展開。ホトケドジョウやゲンジボタルが生息する水辺空間がよみがえり、一度は消滅した希少種ミシマバイカモも復活を果たした。

三島市と沼津市の境に位置する止水域「松毛川」では倒木やヘド口の蓄積で治水機能が低下した河畔林の再生に着手し、竹林の伐採や苗木約5千本の植樹

広域的な維持管理を進め、子どもたちの実践的な環境学習の拠点として機能している。応募に当たっては「議論よりアクション」「走りながら考える」という現場主義の行動指針を強調し、観光スポットとしての回遊性向上や教育的効果などもアピールした。

渡辺専務は「今後も眠っている環境資源を地域の発展に生かし、次世代を担う人材の育成に力を入れていきたい」としている。